

令和6年度「全国学力・学習状況調査」の結果 —分析から見てきた成果・課題と今後の取組について—

区 名	北
学 校 名	滝川小学校
学校長名	村上 昌志

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、令和6年4月18日（木）に、6年生を対象として、「教科（国語・算数）に関する調査」と「児童質問調査」を実施いたしました。

大阪市教育委員会では、保護者や地域の皆様等に説明責任を果たすとともに、より一層教育に関心をお持ちいただき、教育活動にご協力いただくため、各学校が調査結果や調査結果から明らかになった現状等について公表するものとしています。

本校でも、調査結果の分析を行い、これまでの成果や今後取り組むべき課題について明らかにしてまいりましたので、本市教育委員会の方針に則り公表いたします。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。

1 調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査内容

(1) 教科に関する調査

- ・国語
- ・算数

(2) 質問調査

- ・児童に対する調査
- ・学校に対する調査

3 調査の対象

- ・国・公・私立学校の小学校第6学年の原則として全児童
- ・滝川小学校では、第6学年 45名

令和6年度「全国学力・学習状況調査」結果の概要

- ◆ 平均正答率をみると、国語：75ポイント（全国平均+7.3ポイント、大阪市平均+9ポイント）、算数：73ポイント（全国平均+9.6ポイント、大阪市平均+11ポイント）で、ともに全国平均、大阪市平均を上回る結果であった。平均無解答率は、国語1.9ポイント、算数1.4ポイントで、全国平均及び大阪市平均を上回る結果であった。
- ◆ 正答率分布による区分Ⅰ（国語：正答数12～14問・算数：正答数13～16問）の児童は、全国平均に比べて国語が12.3ポイント、算数が19.5ポイント上回っている。また、区分Ⅳ（国語：正答数0～7問・算数：正答数0～6問）の児童は、全国平均に比べて国語が13.5ポイント、算数が6.7ポイント少ない結果であった。

分析から見えてきた成果・課題

教科に関する調査より

〔国語〕

領域別の正答率は、すべての領域で全国平均・大阪市平均を上回っている。特に「情報の扱い方」の正答率は95.6ポイントと高く、一人一台学習端末を日常的に活用した学習を進めていることが要因として考えられる。

〔算数〕

領域別の正答率はすべての領域で全国平均・大阪市平均を上回っている。特に「変化と関係」の正答率は全国平均より16.4ポイント高い。これは事象を比較・分類する際に「相違」「類似」「比較」「関係性」などに着目する思考が定着しつつあることの表れと考える。

質問調査より

「自分にはよいところがあると思いますか」の質問に対して、肯定的な回答している児童の割合は85.1ポイントで、昨年と変わらないものの、「当てはまらない」と回答する児童の割合が5.7ポイント改善している。「一人一人を大切に教育」を目標に掲げ、授業だけでなく、学級活動や児童会活動、幼小交流などの多様な場で活躍の場を設ける実践を進めてきた成果と考える。

「地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いますか」の質問に対して、肯定的な回答をしている児童の割合は85.1ポイントで、大阪市平均より3.3ポイント、全国平均より1.6ポイント上回っている。都会にありながら、天神子どもみこし、滝川スポーツカーニバル、すっきゃねん滝川など子どものためのイベントを地域総がかりで盛り上げるようすを間近で見ていることが大きく影響していると思われる。

今後の取組(アクションプラン)

◇ 自らの学びを調整できる子どもの育成をめざして
児童質問紙「総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいますか」の設問に対して肯定的な回答する児童の割合は、83.0ポイントと高い。これは友だちと協働しながら、最適な解を求めていく自立的な学習態度が定着していると考えられる。校内研究を通して、子どもが学びに没頭し、問いを解決するために自ら行動を起こすような学習のあり方を明らかにしていく。

【 全体の概要 】

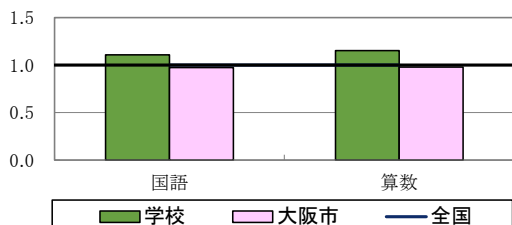
平均正答率（％）

	国語	算数
学校	75	73
大阪市	66	62
全国	67.7	63.4

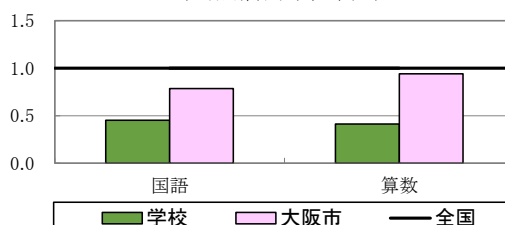
平均無解答率（％）

	国語	算数
学校	1.9	1.4
大阪市	3.3	3.2
全国	4.2	3.4

平均正答率(対全国比)



平均無解答率(対全国比)



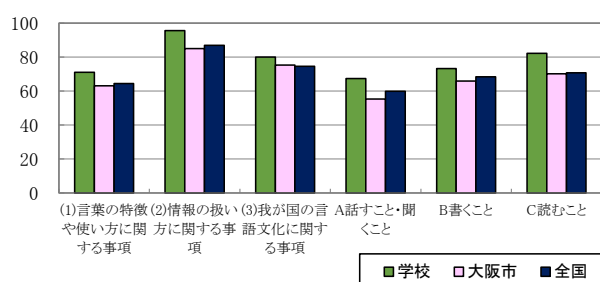
【 国 語 】

学習指導要領 の内容	対象 設問数 (問)	平均正答率(%)		
		学校	大阪市	全国
(1)言葉の特徴や使い 方に関する事項	4	71.1	63.1	64.4
(2)情報の扱い方に 関する事項	1	95.6	85.0	86.9
(3)我が国の言語文 化に関する事項	1	80.0	75.3	74.6
A 話すこと・聞くこと	3	67.4	55.3	59.8
B 書くこと	2	73.3	65.9	68.4
C 読むこと	3	82.2	70.1	70.7

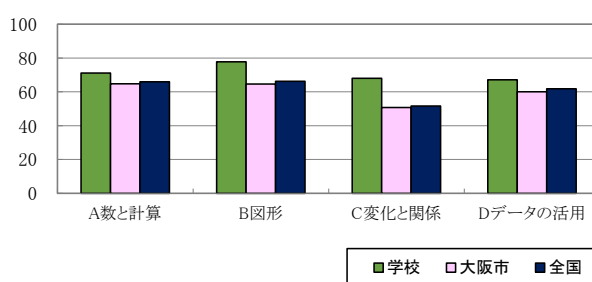
【 算 数 】

学習指導要領 の領域	対象 設問数 (問)	平均正答率(%)		
		学校	大阪市	全国
A 数と計算	6	71.1	64.8	66.0
B 図形	4	77.8	64.6	66.3
C 測定	0			
C 変化と関係	3	68.1	50.8	51.7
D データの活用	4	67.2	60.0	61.8

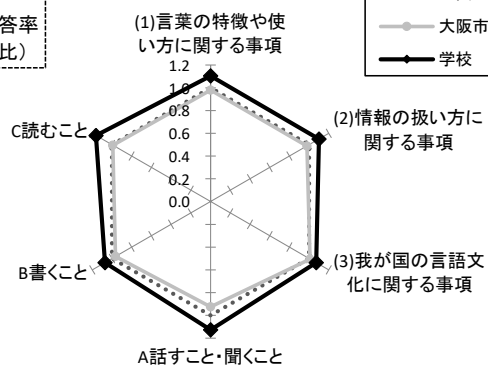
国語 内容別正答率(学校、大阪市、全国)



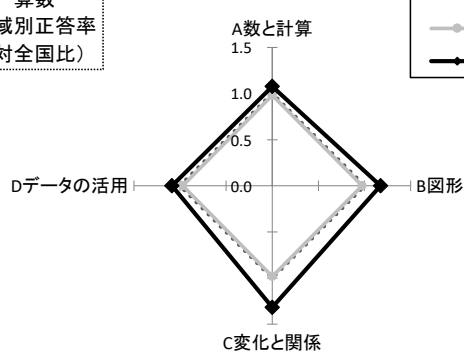
算数 領域別正答率(学校、大阪市、全国)



国語
内容別正答率
(対全国比)



算数
領域別正答率
(対全国比)



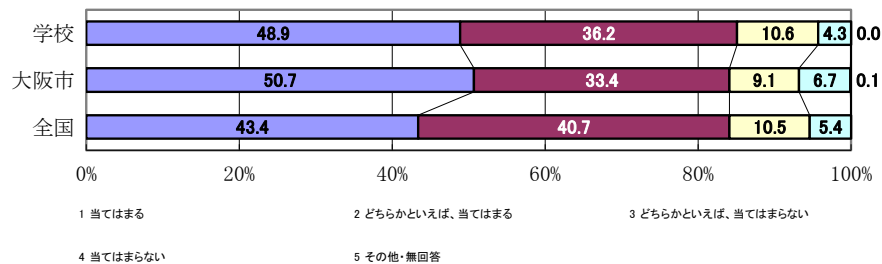
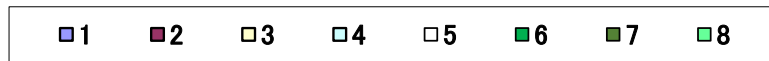
児童質問より

質問番号

質問事項

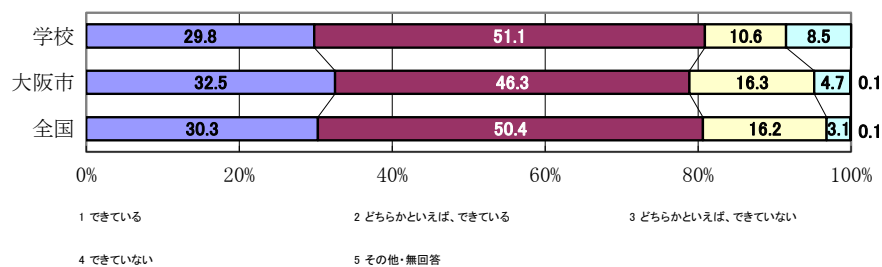
9

自分には、よいところがあると思いますか



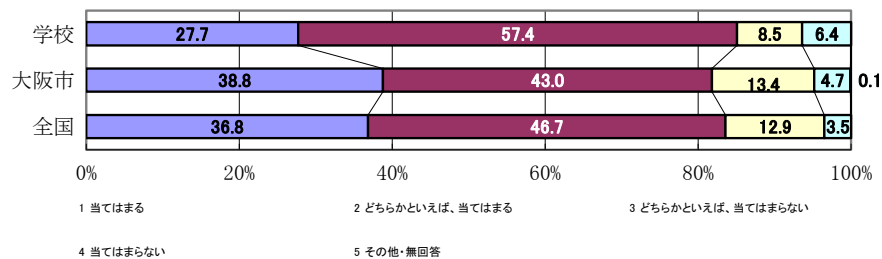
20

分からないことや詳しく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することはできていますか



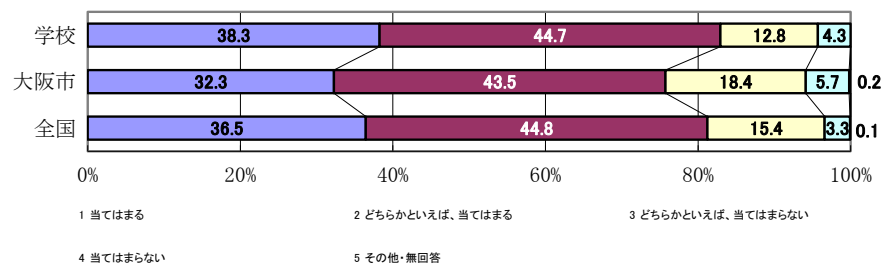
25

地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いますか



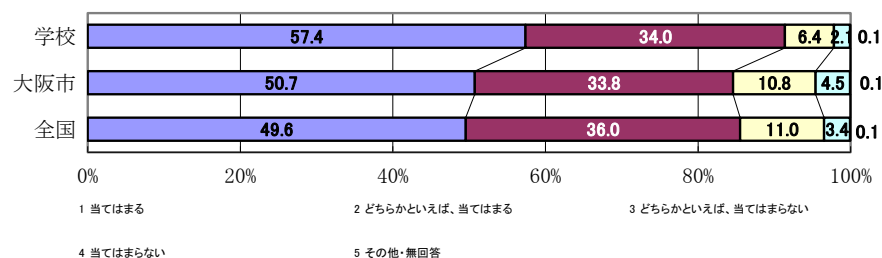
38

総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいますか



60

理科の授業では、自分の予想をもとに観察や実験の計画を立てていますか



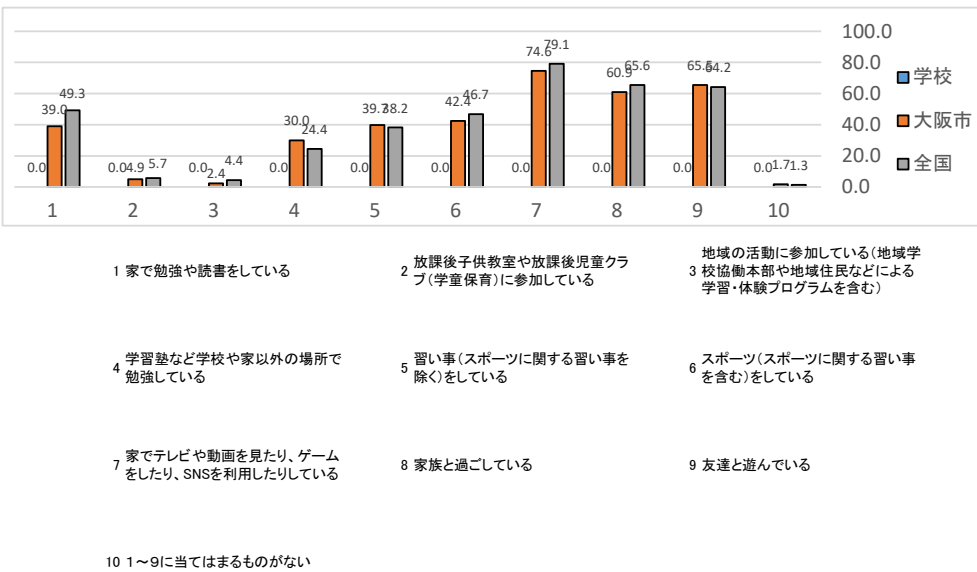
児童質問より(26)

質問番号

質問事項

26

放課後や週末に何をして
過ごすことが多いですか
(複数選択)



学校質問より

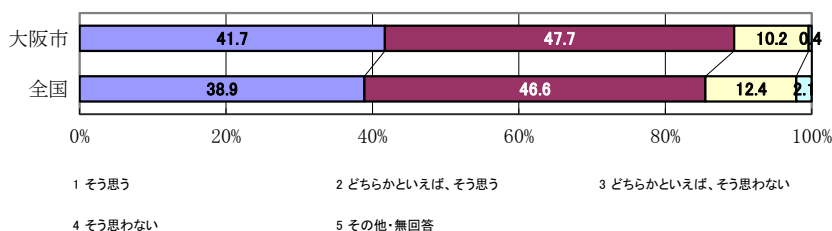
質問番号

質問事項

7

調査対象学年の児童は、授業中の私語が少なく、落ち着いていると思いますか

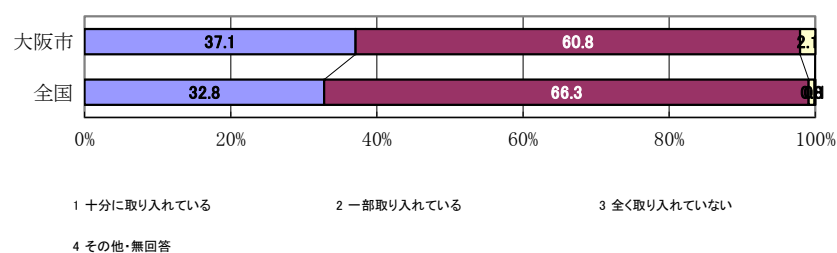
学校 「そう思う」を選択



11

ICTを活用した校務の効率化(事務の軽減)の優良事例を十分に取り入れていますか

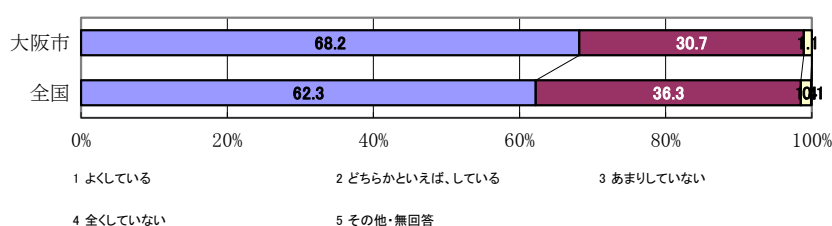
学校 「十分に取り入れている」を選択



16

授業研究や事例研究等、実践的な研修を行っていますか

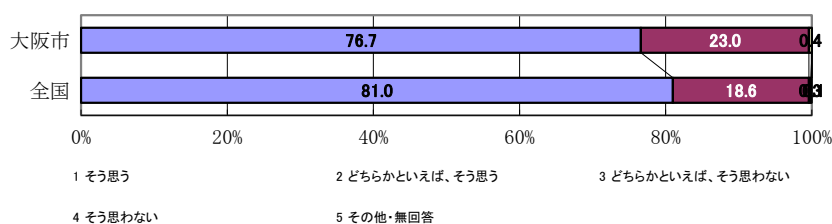
学校 「よくしている」を選択



21

各児童の様子を、担任や副担任だけでなく、可能な限り多くの教職員で見取り、情報交換をしていますか

学校 「そう思う」を選択



54

教員がコンピュータなどのICT機器の使い方を学ぶために必要な研修機会はありますか

学校 「ある」を選択

